

青年漁業者グループの藻場造成に係る研究実践活動を支援 ((社)日本水産資源保護協会、漁村研究実践活動)

南薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

枕崎市漁協青年部が主体となり、近年減少が危惧されている沿岸の水産資源を回復させるための藻場（ホンダワラ類、トサカノリ）造成を行うための参考となる試験を（社）日本水産資源保護協会の助成事業を活用しながら実施し、当地区の藻場造成の効果的な手法を検討した。

【普及内容・特徴】

当地区地先は外海に面し黒潮の影響を受け冬～春先の水温も高く、藻場造成を行うに当たり魚類の食害が一番の課題である。その影響の有無や影響の少ない適地の把握、その他地元優占種（トサカノリ）の造成を行うため、平成21年4月から22年6月にかけて、以下の試験を行った。

振興局はこの試験について、計画策定に係る助言、水産技術開発センターと連携した技術面の支援を行った。

1 藻場造成適地選定試験

アオリイカの産卵場等の機能があり当地区地先海域で激減しているホンダワラ藻場の造成を行うため、魚類の食害の影響の有無及びその影響の小さい箇所を見つける試験を4カ所、4方法（タマネギ袋、フグ籠、網地に差し込み、ロープで直接固定）で実施した。

2 ホンダワラの発芽後の育成状況把握試験

魚類の食害の影響を防ぐ施設（ステンレス籠）にホンダワラの発芽した小石を入れてその後の成長を観察した。

3 地元優占種で当地区の主力海産物でもあり近年低水準となっているトサカノリの母藻投入試験

過去に当該藻場があり現在消失した箇所で母藻（100g／袋（タマネギ袋））を41袋投入して効果の検証を行った。

【成果・活用】

1 藻場造成適地選定試験の結果については、投入した4カ所全てで魚類の食害等の影響で造成を行うための基点となる適地は見つからなかった。また、その食害の影響は投入後2週間程度で母藻となる海藻を消滅させるほど大きいことが確認された。

2 ホンダワラの発芽後の育成状況把握試験については、ステンレス籠が波浪の影響か、壊れて中の小石が消失して観察出来なかった。改めて外海での施設設置の困難さ、ひいては藻場造成の難しさを一同再認識した。

3 地元優占種で当地区の主力海産物でもあり近年低水準となっているトサカノリの母藻投入試験は、1年後の観察で2株のトサカノリが生育しているのが確認され、当該手法での藻場造成の可能性が示された。

これらの結果から、現段階では当地先海域におけるホンダワラ類の藻場造成は困難であり、今後、冬～春の水温が低温化するような時期に検討することとなった。また、魚類の食害の影響が小さいと言われており、今回の試験で母藻投入による藻場造成の可能性が示されたトサカノリを中心とした藻場造成に集中していくことが良いとの結論を得た。

この結果は、第57回鹿児島県青年・女性漁業者活動実績発表大会で発表して外海での藻場造成を行う参考を示した。

【その他】

その後、当該活動は地元漁協の漁業者が主体となって組織する「枕崎の海を守る会」に引き継がれ「環境・生態系保全活動支援事業」を活用してサンゴの保全活動も加えながら現在実施されている。

(参考写真等)

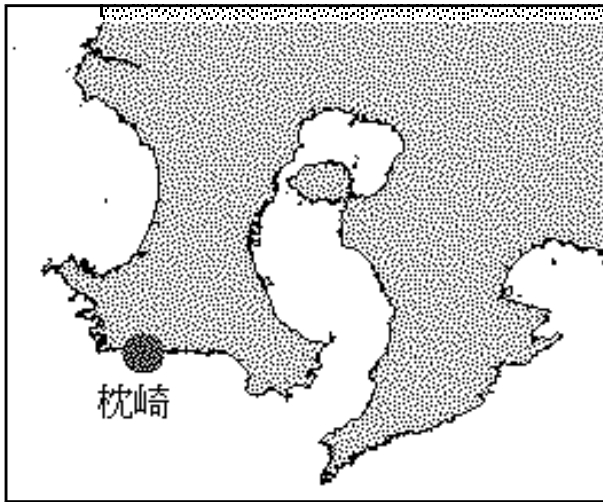


図1 試験海域

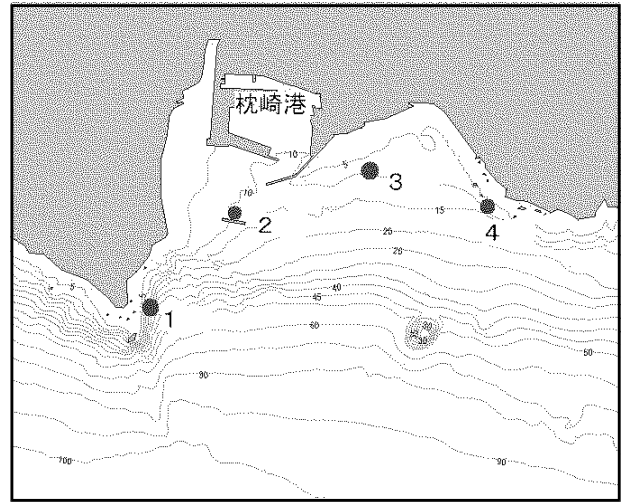


図2 試験箇所(●)



図3 ホンダワラ投入前

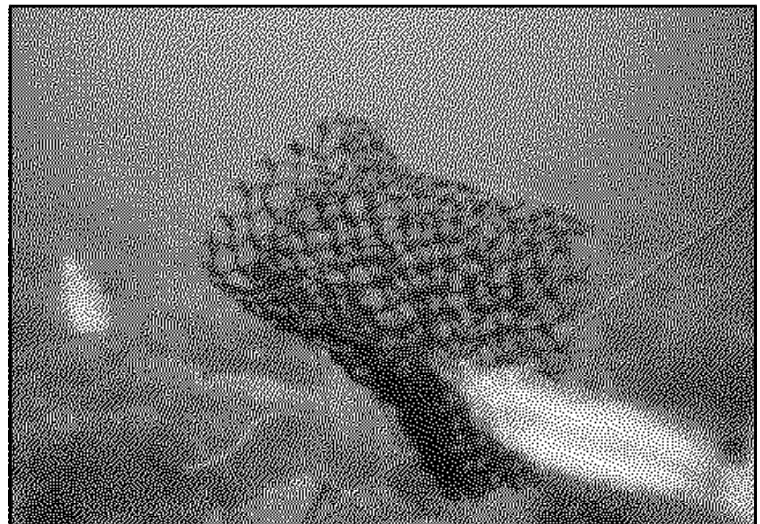


図4 投入2週間後(全て消失)

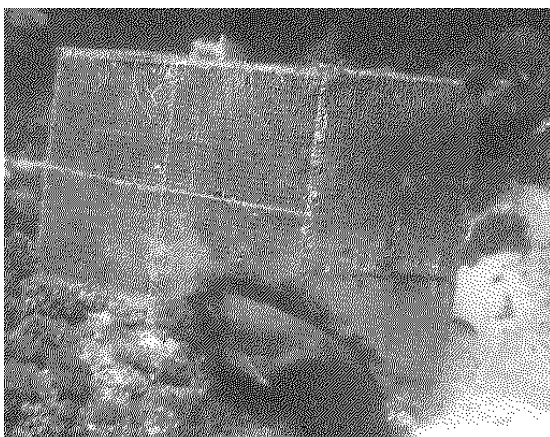


図5 壊れたステンレス籠



図6 母藻投入後に生育が確認されてトサカノリ